

令和4年度第1回知多市総合教育会議議事録

招集年月日 令和4年12月1日

招集場所 知多市役所協議会室

開 会 午後3時

閉 会 午後4時30分

出席者 市長 宮島 壽 男  
教育委員会 永井 清 司  
石井 久 子  
加古 三津代  
腰嶋 正 誉  
栗本 弘 太

要綱第5条第2項に基づく者

副市長 立川 泰 造

企画部長 細川 賢 弘

企画情報課長 河村 英 城

事務局

教育部長兼学校教育課長 春日谷 真 史

指導主事 大西 博

荒尾 敏 雄

学校教育課 永井 菜穂子

山本 泉

石井 信乃介

生涯学習スポーツ課課長補佐 大橋 啓 介

生涯学習スポーツ課 杉江 麻 衣

傍聴人 なし

議 題 (1) コミュニティ・スクールについて

(2) GIGAスクール構想について

そ の 他

春日谷教育部長

みなさま、こんにちは。

ただいまから、令和4年度第1回知多市総合教育会議を開会いたします。

お手元に配付してあります、「令和4年度第1回知多市総合教育会議次第」をご覧ください。会議の開催にあたり、市長からあいさつをお願いいたします。

宮島市長

皆様、こんにちは。市長の宮島でございます。

教育委員会の皆様におかれましては、知多市の教育に日々ご尽力いただき、誠にありがとうございます。昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、教育現場では、プールの授業が再開されるなど、感染対策を施しながら徐々に活動の幅を広げられていると伺っております。関係者の方々のご苦勞あってのことと思えます。改めて感謝申し上げます。

さて、私は市長3期目の公約として、6つの政策の柱を掲げました。その中の1つに「次世代を担う子どもたちを育む教育環境づくり」を掲げ、地域と学校との協働の推進やICTによる児童・生徒の育成など、時代の変化とともに多様化する教育現場のニーズに、的確に対応してまいります。

本日は、「コミュニティ・スクール」と「GIGAスクール構想」を議題とさせていただきます。昨年度と同様の議題ではありますが、「コミュニティ・スクール」では、今年度から南粕谷小学校での運用が開始され、「GIGAスクール構想」では、タブレット端末の持ち帰りが開始されるなど、昨年度から状況が大きく変わっておりますので、新たな課題等があるかと思えます。

限られた時間ではありますが、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただけたらと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

春日谷教育部長

ありがとうございました。それでは、これからの会議の進行につきましては、知多市総合教育会議の運営に関する要綱第5条に基づき、議長を市長をお願いいたします。

議長：宮島市長

それでは、知多市総合教育会議の運営に関する要綱に基づき議長を務めさせていただきます。議題の(1)「コミュニティ・スクールについて」の協議をお願いいたします。教育委員会から説明をお願いします。

栗本委員

資料1「知多市版コミュニティ・スクールと地域学校協働本部」をご覧ください。コミュニティ・スクールは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5の規定に

基づき「学校運営協議会」の設置が義務付けられており、この学校運営協議会を設置した学校のことを「コミュニティ・スクール」と呼びます。本市においても、知多市教育委員会規則を新たに整備し、令和4年度より運用をスタートさせました。コミュニティ・スクールは、教育委員会より任命された委員で構成する学校運営協議会が年3回程度会議を開催し、学校や地域の課題について協議を行います。その協議された事項を地域学校協働本部で実践します。

続いて、「2 導入に向けた経緯・導入スケジュール」についてご説明いたします。知多市においてこの事業は、令和2年4月に第6次総合計画にて、重要業績評価指標の一つとして位置づけられたところからスタートしました。生涯学習スポーツ課と子ども若者支援課、学校教育課の3課が連携しながら準備を進めました。

別紙1「知多市コミュニティ・スクールと地域学校協働本部の導入経緯」をご覧ください。令和2年度は、モデル校となる南粕谷小学校と南粕谷地区への説明を行いました。そして、令和3年度からは、令和4年度からの導入に向けて、予算など具体的な検討を進めました。6月の地区代表者向け学習会では、愛知県教育委員会生涯学習課と義務教育課の職員に講師をお願いし、7月と1月のコンサルタント派遣事業では、先進地である瀬戸市から講師をお招きし、具体的な制度設計についてご助言をいただきました。8月の教員向け研修会では、文部科学省の制度であるCSマイスター派遣事業を活用し、愛知教育大学の風岡治教授にご教示いただきました。本年3月には、南粕谷地区説明会を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、書面開催となりました。

資料1に戻ります。

本市では、令和4年度のモデル校である南粕谷小校区を皮切りに、中学校区ごとに導入を進め、令和12年度にすべての小中学校への導入を目指しています。市内一斉に導入しなかったのは、それぞれの地域や学校に対し、丁寧に説明し、理解を深めた上で活動を進めたいという思いからです。

説明は以上でございませう。補足があれば事務局よりお願いします。

春日谷教育部長

本日お手元に、今年度作成いたしましたコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の広報紙「つむごう！ちたっ子の未来！地域と学校による人づくり」を配付させていただいております。こちらも参考にご覧ください。

石井委員

3の南粕谷地区での取組についてご説明します。まず、南粕谷小学校のコミュニティ・スクールについてご説明します。南粕谷小学校では、この学校運営協議会の前身である

「かすやっ子協議会」をもとに、組織をリニューアルし、名称を「新かすやっ子協議会」としました。

新かすやっ子協議会は、年3回開催とし、第1回を5月6日に開催しました。学校運営協議会の委員には、地域学校協働本部の要となる地域学校協働活動推進員はじめ、コミュニティ会長やスポーツ推進委員など地域で活躍する幅広い方々を任命いたしました。新しい制度となったことで、形式的で意見が全く出ない会になることを心配していましたが、各委員からは、それぞれの立場に基づく意見が飛び交い、前向きで活発な議論を行うことができました。

続いて、地域学校協働本部についてご説明いたします。別紙2「南粕谷小学校区地域学校協働本部の活動状況について」をご覧ください。コミュニティ・スクールと同様、令和4年4月から運用が始まった「地域学校協働本部事業」は、生涯学習スポーツ課が中心となりコーディネーターの発掘から、要綱の整備などの準備を進めてきました。

詳細につきましては、事務局から説明させます。

#### 大橋生涯学習スポーツ課課長補佐

別紙2「南粕谷小学校区地域学校協働本部の活動状況について（報告）」をご覧ください。1の概要についてです。4月から運用を開始した南粕谷小学校区地域学校協働本部「通称 かすやっ子ラウンジ」は、今井秀明コーディネーターが中心となり、児童、教職員及び保護者に対して、事業の周知を図ったほか、ボランティアの募集や学校との連携事業を実施しています。

2の内容についてです。まず事業周知として、4月に教職員、児童、保護者に対して、今井コーディネーターから説明を行いました。ボランティアの募集は、7月に南粕谷の全世帯に募集ちらしを配布し、9月30日時点で24名の登録がありました。

続いて、各種事業の開催についてです。6月11日に開催した「かすや交流講座」は、学校と地域の交流・連携を深めることを目的として、南粕谷にお住まいの方を中心にゲストティーチャーをお願いしました。講座は、切り絵やロープ人形、しかけ絵本、和太鼓などの9講座を開催し、延べ384名が参加しました。次のページには、各講座の様子の写真と、6月12日に中日新聞に掲載された記事を載せております。

次に、地域文化クラブについてです。地域文化クラブは、小学校の特別活動であるクラブ活動の一つとして、地域とのつながりを継続していくため、地域の方をゲストティーチャーにお招きし、講座を実施するために設立しました。年4回実施され、4年生以上の児童23名が参加しています。講座は、中段の表のとおりで、現在までに3回を実施しました。

次に、総合的な学習の時間「南粕谷の昔の話を聞く会」では、今井コーディネーターと3年生の学級担任がかすやっ子ラウンジで話をしている中で、「南粕谷小学校の1期生から当時の話を聞けないか」という相談があり、実施しました。実際に3名の講師が話をしてくださり、子どもたちが知らない学校の歴史を楽しく学ぶことができました。

次に、生活科「動物と触れ合おう」では、小学1年生の生活科において、例年実施している東山動物園での動物との触れ合い体験をコロナの影響で中止しているため、子どもたちが動物と触れ合う機会をつくりたいという学級担任からの要望により、実現しました。ヤギを初めて見た児童も多く最初は怖がっていましたが、エサやり体験等を通じて積極的に触れあうようになっていく姿が見られ、貴重な経験になりました。

次に、除草作業については、南粕谷小学校運動会を実施するにあたり、除草作業を9月28日に実施しました。保護者、教職員、南粕谷のボランティアの方のほか、市のちたっ子ボランティアに登録している南粕谷小学校区外の方にも依頼をし、延べ38名が参加しました。

最後に、コーディネーターと教職員間の連携体制についてです。今井コーディネーターと教職員の連携体制を構築するため、全体打合せや個別打合せ等を随時実施しています。コーディネーターと教職員打合せでは、かすや交流講座の振り返りや学校側からの要望等について打合せが行われました。この打合せを受けて、現在も実施に向けて企画等準備を進めています。

説明は以上です。

#### 石井委員

事務局の説明のように、学校と地域が連携しながら進めているこの事業ですが、先ほども申し上げたとおり、全市に展開するまでに時間がかかる事業です。今後も充実した制度としていくために、課題として大きく3点挙げさせていただきます。

一つ目が、「キーパーソンの育成、人材確保」です。幸いにも、南粕谷では素晴らしい方にコーディネーターをお願いすることができましたが、今後展開していく地域でも、地域の実情に精通した方を見つけるとともに、研修などを通して育成していくことが必要です。また、学校に協力してくださるボランティアを確保していくことも制度を充実するために重要です。

二つ目が、「地域の協力が不可欠」であることです。この事業は、新しい制度なので、継続した事業周知を行いながら、学校や地域の理解を深めていくことが必要です。

三つ目が、「行政としての継続的な支援」が必要です。何度も申し上げておりますが、この事業は令和12年度までに全市に展開する計画です。地域に根差した事業を目指すために、教育委員会と市長部局が連携しながら継続的に支援していくことが必要です。

新型コロナウイルス感染症などの影響もあり財政面で大変厳しいことは承知しておりますが、よろしく願いいたします。

議長

ありがとうございました。昨年度の総合教育会議において制度の中身について協議した「コミュニティ・スクール」が、本年度から実際に南粕谷地区で運用を開始し、さまざまな事業を展開していることがよくわかりました。

実際に制度が始まり、地域の受け入れの様子としてはいかがですが。

石井委員

南粕谷は高齢者が多く、趣味や特技をお持ちの方が多く住んでいらっしゃいますので、快く引き受けていただいています。実際には高齢者ならではの課題もあり、急遽内容を変更しなければならなかったこともあると聞いています。

先ほどの説明にもありました卒業生に話を聞く講座や、そのほかの活動において、今後はリモートでの開催もできるのではという話も出ていました。

議長

ありがとうございました。南粕谷は地域の特性もあり、さまざまな方の協力のもと素晴らしいスタートが切れているように思いますが、今後旭南中学校区へ展開していくにあたり課題等現状はいかがでしょうか。

石井委員

どの地域にとっても「子どもは地域の宝」であるという認識はあると思います。その上で、地域に精通した方をコーディネーターとして人材発掘していくことが要になると思います。私自身も講師を経験して、やる前は少し尻込みしていても、実際にやってみると、子どもと触れ合うことで元気が貰え、お母さんたちからはありがとうと言われ、保護者とも交流するきっかけになったので、ぜひ多くの方に関わってほしいと思います。

また、広報ちた12月号の特集記事として取り上げていただき、地域としては大変うれしく思います。こういった市の伴走支援があると、地域のモチベーションアップにもつながると思います。

議長

ありがとうございます。広報ちたについては、昨年度からリニューアルしまして、ページ数も増やしてより地域の事柄についてより深掘りできるような工夫をしています。おかげさまで、地域の皆様から褒めていただくことが増え、うれしく思っています。

石井委員からはコーディネーターの人材発掘が重要であるとのお話がありましたが、現在の進捗状況について事務局から補足はありますか。

大橋生涯学習スポーツ課課長補佐

進捗状況について説明させていただきます。現在、令和6年度からの導入に向けて、ちたっ子コーディネーターを統括する立場である澤田広彰統括コーディネーターを中心に、旭南中学校校区の小中学校長と打合せ等を実施しています。

第1回は7月8日に、導入に向けた事業説明とコーディネーターの重要性について説明をしました。第2回は11月24日に、令和5年度スケジュールの確認とコーディネーター候補者選定の進捗状況を確認しました。

コーディネーター候補者については、どの校区においても人選に苦慮しております。他自治体では、学校やコミュニティの現状を良く知る元PTAの方や、元教職員等を選出することが多いと聞いておりますので、他自治体を参考にしながら、継続して候補者を探していきます。

説明は以上です。

議長

ありがとうございました。この事業が実りの多い事業となるためには、コーディネーター選びが重要だと思います。また、人材確保だけではなく、コーディネーターに知識や理解を深めていただく機会の提供などの環境整備も併せて重要になると思います。

教育長から何かありますか。

教育長

南粕谷小学校には、「かすやっ子協議会」という組織がもともとあったので、うまくスタートできたと思いますが、他の地域はゼロからのスタートになります。その点でコーディネーターを探すことが重要ですし、他方で、学校を核としていくということは、拠点となる場所の整備も必要になります。

また、良い事業を始めることができたので、この事業を継続していかないと意味がないと思いますので、うまく世代交代して繋いでいく方法を教育委員会としても検討していく必要がありますし、市の支援も必要になると思いますので、よろしくお願いします。

議長

ありがとうございます。市としても継続して繋いでいくことの重要性は強く感じておりますので、教育委員会と連携して取り組んでまいります。

議題の(1)「コミュニティ・スクールについて」は、これで終わらせていただきます。

それでは、議題の(2)「GIGAスクール構想について」に入らせていただきます。議題の(2)、GIGAスクール構想については、市としても今年度はセンターサーバ化などにより様々なソフトウェアを整備しています。

教育委員会から説明をお願いします。

#### 腰嶋委員

それでは、資料2「G I G Aスクール構想について」をご覧ください。1のG I G Aスクール構想とは、S o c i e t y 5 . 0の時代を生きる子どもたちのために、公正に「個別最適化され、創造性を育む学び」を実現させる国の取組です。教育委員会として、令和3年3月に「知多市学校教育情報化推進計画（知多市版G I G Aスクール構想）」を策定し、「ひとを育み 未来につなぐ知多の教育」の実現に向け、教育活動におけるI C Tの効果的な活用を図る取組を推進しているところです。

2のI C T環境整備の現状については、今年度新たに整備してきたものを中心にご説明します。(1)のタブレット端末整備では、指導者用として66台追加整備し、(3)のI C T支援員等の配置では、15校に3人配置を4人配置とし、1人増員していただきました。(4)の校内ネットワーク整備は、9月からセンターサーバ化が図られ、これから3月までの間にアクセスポイントの増設工事が行われます。(5)のモバイルルーター整備では、新たに適応指導教室ふれあいスクールタッチに配置し、不登校児童生徒がタッチにおいてもタブレット端末を使用した学習が出来る環境を整備しました。(6)の授業支援ソフト等の導入では、センターサーバ化に併せて各種コミュニケーションツールや採点集約業務ソフト等のソフトウェアを複数導入しました。(7)のデジタル教科書等整備では、小中学校全15校が学習者用デジタル教科書の実証事業に参加し、文部科学省のC B Tシステム（メクビット）への登録と、メクビットの入口となる学習eポータルの一つであるL-G a t eを導入しました。このように、今年度はセンターサーバ化に併せて、非常に多くのソフトウェアの導入が行われ、知多市版G I G Aスクール構想に沿った学校現場のI C T環境整備が着実に進められています。

補足があれば事務局よりお願いします。

#### 春日谷教育部長

(2)の電子黒板整備についてですが、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、特別教室に追加整備を進めておりますことを補足させていただきます。

#### 加古委員

説明の前に、事務局が補足資料を用意していますので、紹介させていただきます。注1が知多市版G I G Aスクール構想の概要版です。注2が保護者連絡ツールで、令和4年9月から市内全校で導入が始まり、欠席連絡等をこのツールを活用して行っています。注3の採点集約業務ソフトは、令和4年9月から市内各中学校に導入しました。実施している学校からは高評価を受けていると聞いています。注4のタブレット型校務支援ソフトは、健康観察をアプリ上でできるソフトです。注5の心と学びの記録・振り返り支援システム

は、令和4年9月以降随時導入で、心の天気や学びの天気を見て支援につなげるソフトです。注6のL-Gateは、導入が完了しております。

では、3の現在の達成状況と今後の取組についてご説明します。知多市版GIGAスクール構想では、(1)児童生徒の情報活用能力の育成、(2)教師のICT活用指導力の向上、(3)児童生徒の学びの保障、(4)校務の情報課の推進の4つの基本方針を設定しています。(1)の児童生徒の情報活用能力の育成については、令和3年度の目標は達成できている状況です。今後は、日常的な学習の中で情報活用能力を育成し、子どもたちがICT機器を必要ときに自ら活用できるように支援します。今年度の全国学力・学習状況調査の結果を見ますと、知多市はICT機器の活用の割合が全国平均・愛知県平均より高く、昨年よりポイントも上がっています。これは市の支援を受けてICT機器の整備が進み、それぞれの学校で活用されていることの表れと考えます。

(2)の教師のICT活用指導力の向上については、4項目ある目標の中で1項目しか達成できていません。どうしてもベテランの教員と若い教員では、ICT機器の活用能力に差があります。今後は経験年数別ICT研修会やICTスキルアップ研修会といった、スキルや理解度に応じた研修会を実施しながら取り組んでまいります。

(3)の児童生徒の学びの保障については、目標は達成できている状況です。今後は、授業のオンライン授業の実現に向けて体制を整備します。

(4)の校務の情報化の推進については、令和3年度の目標は達成できているものの、まだまだ業務改善を図る必要があると感じています。今後もICT機器を活用した校務の情報化による業務改善を進めます。

4のさらなる充実に向けての(1)ICT支援員の配置充実についてですが、今年度1名増員していただき大変ありがたいですが、令和5年度には、全国学力・学習状況調査においてタブレット端末の活用が始まります。また、令和6年度には英語の学習者用デジタル教科書の導入が予定されているなど、教育現場では大きな変革期を迎えています。さらに、ICT機器の管理や操作支援等の業務において教職員の負担を軽減するためには、学校現場の急激なICT化を支える人材の配置が必要です。現在配置されているICT支援員の学校訪問日数を各校月8日から月10日へ増加し、配置の充実を図ります。

(2)のICT機器の適正管理及び効果的な活用のための予算確保については、タブレット端末の活用が進むと同時に、画面破損等タブレット修繕が必要となる件数は増加しています。さらに令和5年度には導入から3年が経過し、使用頻度の高い学校においては、バッテリー交換が必要となってくることが予測されます。令和7年度には端末導入から5年が経過するため、更新に向けた検討を進めていますが、学習者用端末及び指導者用端末を更新する場合、多額の費用がかかることとなります。

今後は、端末の保守に係る費用や教育用ソフトウェアの費用に加え、バッテリー交換等の修繕や端末更新の費用等が必要となります。端末の適正な維持管理が子どもたちの教育に大きな影響を与えるため、継続的かつ十分な財政措置を国にも要望していただければと思います。

議長

ありがとうございました。いくつか課題も挙げられました。様々な仕組みが導入され成果も上げていただいている状況ですが、過渡期における負担増は相当あると思います。現場の先生方の負担感をいかに軽減し、システム移行の効果を実感していただくことが重要だと認識しています。その上で、児童・生徒の皆さんのより手厚い支援に繋げていくことが大切だと思います。

加古委員

市長のおっしゃる通り、過渡期における負担感の増加は避けられないと思いますが、短期集中的に研修等実施することで確実に効果は見られるので、できるだけ負担をかけずにシステム移行していくことは可能だと考えています。現場の感覚としてはどのように感じているか事務局から説明してください。

荒尾指導主事

現場の教員にとって、過渡期における様々なシステムが導入されることの負担感はあるかと思いますが、研修会等の実施や業者による説明会を各校に回って実施するなどその負担感をいかに支えていくかが教育委員会として大切であると考えています。その上で重要なのは、各校の教員が利便性を実感できることだと考えています。例えば、保護者との連絡ツールである「t e t o r u」を実際に使用し、保護者からの欠席連絡等の電話対応の時間が減ったなどの効果を実感できることで、各校でそれぞれさらに便利な使い方のアイデアが出てきている状況です。利便性を実感することで、さらなる推進につながると感じています。

議長

ありがとうございました。国の事業として様々な導入を進めてきましたが、更新やメンテナンス費用については、具体的な助成がないのが現状です。県市長会や全国市長会等を通じて、引き続き国へ要望をしているところです。

常々申し上げておりますが、教育費に予算をかけることは市民誰一人として不満を持つ方はいないと思いますので、遠慮なくお伝えいただきたいと思います。できる限り前向きに検討してまいります。

G I G A スクール構想を進めてきた中で学校現場ではどのような状況でしょうか。

## 腰嶋委員

学校訪問等で様子を伺うと、児童生徒はタブレット端末への飲み込みや活用は早いと感じています。一方、先生方は、年齢や慣れという部分で得手不得手が出てしまっていて、活用に差が出てしまっているのが現状です。また、授業の科目によって活用の差があるように感じています。

I C T支援員の増員や時間数を増やすことも大切ですが、先生同士で情報共有していくことも重要であると思いますので、機会を見て学校には伝えさせていただきました。

## 加古委員

今後授業がデジタル化に偏ってしまうのもどうかと感じています。自分の手で紙に文字を書くことも大切です。学校訪問で見た授業では、例えば、先生がタブレットの中で文章を組み立てさせ、完成したものを紙に書かせるなど、デジタルとアナログを組み合わせる工夫しながら行っていました。これからは、デジタルとアナログ、デジタルとリアルをうまく組み合わせることがI C Tの推進には重要であると思います。

## 議長

ありがとうございます。現状と課題がよく分かりました。

最後に教育長から何かございますか。

## 教育長

市長のおっしゃる通り、初期費用だけの助成では立ち行かなくなってしまうので、都市教育長会や市町村教育長会でも県を通じて国に要望しているところです。自治体の財政力の差によって教育に差が出てはいけないと思いますので、できる限り市からの支援もしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

I C T機器はあくまでツールの一つです。これがすべてではないので、黒板の板書で授業が終わった後に内容を振り返ることができるということも大切なことです。紙ベースの教科書やプリントは今後も必要になると思います。「辞書をめくる大切さ」も忘れないようにしていく必要があると考えています。

かつて、電子黒板が最初に各校1～2台導入されたときは、移動の大変さもあり、あまり活用が進みませんでした。各クラスに導入が進んだ現在では日常的に活用されるようになりました。導入が進むと活用が促進される面もあると実感しています。

教材研究においても、タブレットを活用して、これまで時間がかかった部分から短縮できており、保護者からの欠席連絡の電話対応の部分も、アプリの導入でかなり時間の削減ができています。少しずつでも時間を削減することが、働き方改革にもつながると思います。

分からない部分があったときにすぐに尋ねられる体制を整えることも重要だと思います。ICT支援員のさらなる充実が必要だと思いますので、よろしくお願いします。

一旦導入後も、更新作業が必要になります。教科書改訂に併せてデジタル教科書も改訂が必要になります。来年度小学校が教科書採択、再来年度改訂して、再来年度中学校の採択その翌年度改訂が控えています。予算がかかりますが、必要に応じて更新していかないと使い勝手が悪いものになってしまいますので、よろしくお願いします。

議長

ありがとうございました。せっかく流れができた制度ですので、今後も、現場の先生が困らないように、できる限りしっかり支援をしていきたいと思えます。

それでは、議題の(2)「GIGAスクール構想」につきましては、これで終わらせていただきます。

最後に委員の皆様から何かございますか。

石井委員

ありません。

議長

ご熱心なご協議をいただき、ありがとうございました。これをもちまして、令和4年度第1回知多市総合教育会議を閉会いたします。